

作成日 2015/10/07

改訂日 2024/01/19

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

| | |
|----------|-----------------------------------|
| 化学品の名称 | X-7塗料添加剤 |
| 製品コード | 300350 |
| 整理番号 | 300350-3 |
| 供給者の会社名称 | 株式会社ソーラー |
| 住所 | 兵庫県神戸市中央区布引町2丁目1番7号 |
| 担当部門 | 技術開発部 |
| 電話番号 | 0790-49-2366 |
| FAX番号 | 0790-49-1588 |
| 推奨用途 | 塗料用添加剤 |
| 使用上の制限 | 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと |

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

| | |
|----------|--|
| 物理化学的危険性 | 引火性液体 区分4 |
| 健康有害性 | 皮膚腐食性／刺激性 区分2 誤えん有害性 区分1 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。 |

GHSラベル要素

絵表示



| | |
|---------|--|
| 注意喚起語 | 危険 |
| 危険有害性情報 | H227 可燃性液体 H304 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ H315 皮膚刺激 |
| 注意書き | |
| 安全対策 | 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210) 取扱い後はよく手を洗うこと。(P264) 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280) |
| 応急措置 | 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。(P301+P310) 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。(P302+P352) 特別な処置が必要である。(P321) 無理に吐かせないこと。(P331) 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。(P332+P313) 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364) 火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。(P370+P378) |
| 保管 | 換気の良い場所で保管すること。(P403) 施錠して保管すること。(P405) |
| 廃棄 | 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501) |

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

| 化学名又は一般名 | 濃度又は濃度範囲 | CAS番号 |
|----------|----------|-------|
| 石油系溶剤 | 70～80% | 非開示 |

| | | |
|---------|--------|-----|
| ポリシロキサン | 20～30% | 非開示 |
|---------|--------|-----|

4. 応急措置

吸入した場合

蒸気・ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診断を受ける。

呼吸困難または呼吸が停止しているときは、直ちに人工呼吸を行い、速やかに医師の手当てを受ける。

嘔吐物を飲み込ませないようにする。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。

多量の水と石鹸で洗う。溶剤、シンナーを使用してはならない。

外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合には医師の診断を受ける。

眼に入った場合

直ちに清浄な流水で15分以上洗眼し、医師の診断を受ける。

洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球とまぶたのすみずみにまで水がよくいきわたるように洗淨する。

コンタクトレンズ着用の場合は、容易であれば外して洗淨する。

飲み込んだ場合

水で口をすすぐ。

無理に吐かせてはいけない。

被災者に意識がない場合には、口から何も与えてはならない。

嘔吐物を飲み込ませない。

直ちに医師の手当てを受ける。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

適切な保護具を着用する。(8. 暴露防止及び保護措置の項を参照)

5. 火災時の措置

適切な消火剤

火災の場合は泡、粉末、炭酸ガスを使用する。

使ってはならない消火剤

棒状注水（火災を拡大し危険な場合がある。）

特有の消火方法

指定の消火剤を使用する。

消火活動は風上から行う。

可燃性のものを周囲から素早く取り除く。

周囲の設備などに散水して冷却する。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

回収が終わるまで十分な換気を行う。

作業の際には適切な保護具を着用する。(8. ばく露防止及び保護措置の項を参照)

周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。

付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除く。

着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。

環境に対する注意事項

漏出した物質が下水や排水溝へ流出、また地下へ浸透することを防止する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

砂・布などに吸収させて密閉できる容器に回収する。

二次災害の防止策

付着物・廃棄物等は、関係法規に基づいて処置をする。

衝撃、静電気で火花が発生しない材料の用具を用いて回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

使用機器類は防爆構造とし、設備には静電気対策を実施する。

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

安全取扱注意事項

取扱う前に、本SDSの安全注意を読み理解する。

取扱いの終了の都度、容器を密閉する。

取扱い後には身体、顔、手、眼等をよく洗う。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

| | | |
|----|---------|---|
| 保管 | 接触回避 | 『10. 安定性及び反応性』を参照。 |
| | 安全な保管条件 | 容器を密閉する。 直射日光を避け、換気の良い場所（冷暗所等）に保管する。 火気、熱源から遠ざけて保管する。 |

8. ばく露防止及び保護措置

| | | |
|------|------------------------|--|
| 設備対策 | | 取扱いについては、全体換気装置または局所排気設備を設置した場所で取扱う。 タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付ける。 取扱い場所近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備及び休憩場所を設け、その位置を明瞭に表示する。 取扱い設備は防爆型を使用する。 |
| 保護具 | 呼吸用保護具 | 有機ガス用防毒マスクを着用するのが望ましい。 密閉された場所では送気マスクを着用する。 酸素濃度が18%未満の場所では、ろ過式の防毒マスクを使用しない。 |
| | 手の保護具 | 不浸透性の保護手袋を着用する。 |
| | 眼、顔面の保護具 皮膚及び身体の保護具 | 保護眼鏡を着用する。 保護衣及び履物を着用する。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|----------------------------|----------------------------|
| 物理状態 | 液体 |
| 形状 | 液体 |
| 色 | 透明 |
| 臭い | 溶剤臭 |
| 融点／凝固点 | データなし |
| 沸点又は初留点及び沸点 範囲 | データなし |
| 可燃性 | データなし |
| 爆発下限界及び爆発上限 下限 ／可燃限界 | データなし |
| | 上限 |
| 引火点 | データなし |
| 自然発火点 | 87°C (類推値) |
| 分解温度 | データなし |
| pH | データなし |
| 動粘性率 | 7mm ² /s (40°C) |
| 溶解度 | 水に不溶 |
| n-オクタノール／水分配 係数 | データなし |
| 蒸気圧 | データなし |
| 密度及び／又は相対密度 | 約1.0 |
| 相対ガス密度 | データなし |
| 粒子特性 | データなし |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|---------------------|
| 反応性 | 情報なし |
| 化学的安定性 | 通常の手扱い条件においては安定である。 |
| 危険有害反応可能性 | 情報なし |
| 避けるべき条件 | 情報なし |
| 混触危険物質 | 情報なし |
| 危険有害な分解生成物 | 情報なし |

11. 有害性情報

| | |
|-------------|--|
| 急性毒性 | 危険有害性に該当する成分を濃度限界以上含有していないこと、毒性未知成分を含有していることより、分類できない。 |
| 皮膚腐食性／皮膚刺激性 | 皮膚腐食性／皮膚刺激性 区分2の成分合計が10%以上のため、区分2に該当する。 |

| | |
|----------------------|--|
| 眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性 | 危険有害性に該当する成分を濃度限界以上含有していないこと、毒性未知成分を含有していることより、分類できない。 |
| 呼吸器感受性 | 危険有害性に該当する成分を濃度限界以上含有していないこと、毒性未知成分を含有していることより、分類できない。 |
| 皮膚感受性 | 危険有害性に該当する成分を濃度限界以上含有していないこと、毒性未知成分を含有していることより、分類できない。 |
| 生殖細胞変異原性 | 危険有害性に該当する成分を濃度限界以上含有していないこと、毒性未知成分を含有していることより、分類できない。 |
| 発がん性 | 危険有害性に該当する成分を濃度限界以上含有していないこと、毒性未知成分を含有していることより、分類できない。 |
| 生殖毒性 | 危険有害性に該当する成分を濃度限界以上含有していないこと、毒性未知成分を含有していることより、分類できない。 |
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | 危険有害性に該当する成分を濃度限界以上含有していないこと、毒性未知成分を含有していることより、分類できない。 |
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | 危険有害性に該当する成分を濃度限界以上含有していないこと、毒性未知成分を含有していることより、分類できない。 |
| 誤えん有害性 | 誤えん有害性 区分1の成分合計が10%以上かつ動粘性率が20.5mm ² /s(40℃)以下のため、区分1に該当する。 |

1 2. 環境影響情報

| | |
|----------------|--|
| 水生環境有害性 短期（急性） | 危険有害性に該当する成分を濃度限界以上含有していないこと、毒性未知成分を含有していることより、分類できない。 |
| 水生環境有害性 長期（慢性） | 危険有害性に該当する成分を濃度限界以上含有していないこと、毒性未知成分を含有していることより、分類できない。 |
| 生態毒性 | 利用可能な情報なし |
| 残留性・分解性 | 利用可能な情報なし |
| 生体蓄積性 | 利用可能な情報なし |
| 土壤中の移動性 | 利用可能な情報なし |
| オゾン層への有害性 | 利用可能な情報なし |

1 3. 廃棄上の注意

| | |
|----------|---|
| 残余廃棄物 | <p>廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。</p> <p>都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に、もしくは地方自治体が処理を行っている場合には地方自治体に委託して処理する。</p> <p>排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律および関係する法規に従って処理するか、業者に委託する。</p> |
| 汚染容器及び包装 | <p>容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p> <p>空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。</p> |

1 4. 輸送上の注意

| | | |
|---------|--|-----------------------|
| 国際規制 | 海上規制情報 | 非該当 Not applicable |
| | Liquid Substance Transported in Bulk According to MARPOL 73/78, Annex II, the IBC Code | Not applicable |
| 国内規制 | 航空規制情報 | 非該当 |
| | 陸上規制 | 消防法等の規定に従う。 |
| | 海上規制情報 | 非該当 |
| | 海洋汚染物質 | 非該当 |
| | MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質 | 非該当 |
| 特別の安全対策 | 航空規制情報 | 非該当 |
| | | 取扱い及び保管上の注意の項の記載に従う。 |

緊急時応急措置指針番号

運搬に際しては、容器の漏れのないことを確かめ、転倒・落下・損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
なし

15. 適用法令

労働安全衛生法
毒物及び劇物取締法
化学物質排出把握管理促進法（P R T R法）
消防法

非該当
非該当
非該当

第4類 引火性液体 第三石油類（非水溶性）

16. その他の情報

参考文献

日本ケミカルデータベース株式会社 データベース
使用原料SDS
JIS Z7253 : 2019
JIS Z7252 : 2019

その他

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には、ご使用者の責任において十分な安全対策を実施の上でご利用ください。
本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。